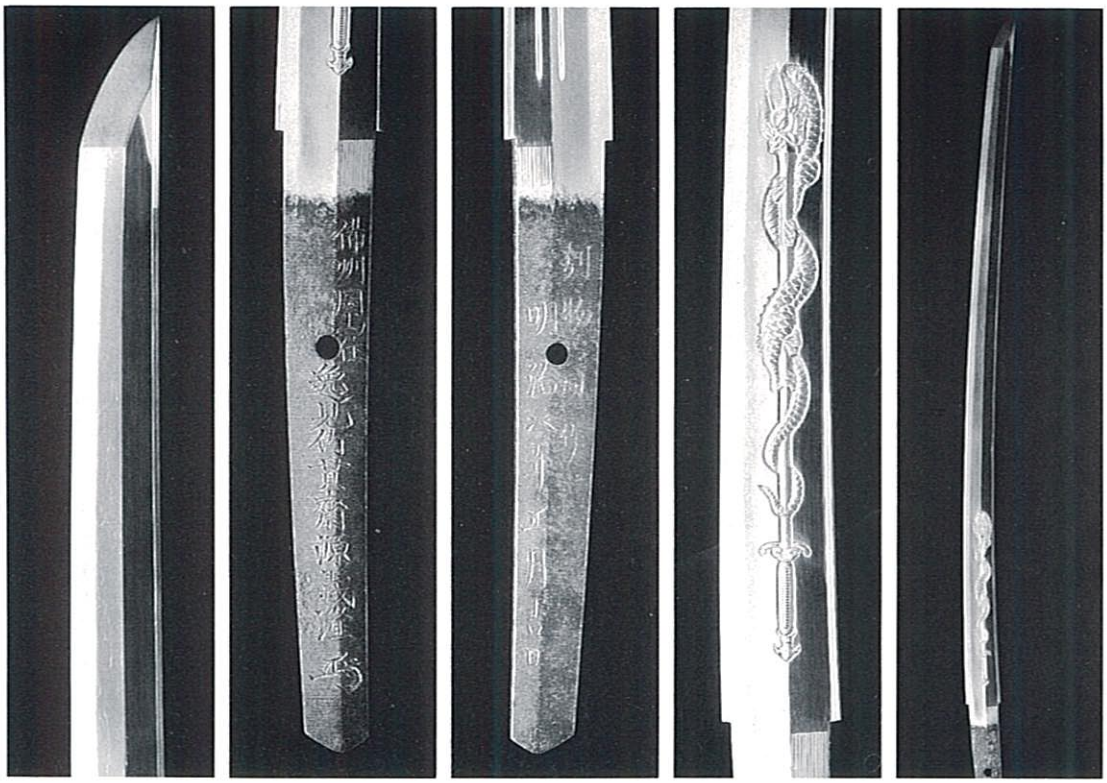
岡山県立博物館だより

38号
3月31日
1992



新収蔵品紹介

刀　銘　備州岡山住　逸見竹貫斎源義隆花押

明治四年正月吉日　刻物同作

刃長64.8cm　反り1.2cm

逸見東洋は，生前から鬼か神かと恐れられていた。破天荒な生き方と神業のような作品を作る二面に発せられた呼び方でもあった。時代と格闘し，孤高に，つむじ風のように走り去った万能の天才逸見東洋は岡山の生んだ明治を代表する工芸家である。

逸見東洋は弘化3年（1846）に岡山に生まれ，大正9年（1920）に亡くなった刀工である。明治9年の廃刀令までは明治正宗と呼ばれ，20歳代ですでにわが国第一級の刀工であった。しかも時代は風雲急を告げ，刀剣が歴史の中に再び実用のものとして呼び戻された頃である。

しかし幸か不幸か時代は矢継ぎ早に，彼に大きな試練を与えた。続く廃刀令は良くも悪くも前述の二面を作ってしまったのである。

廃刀令以後の彼は木彫，竹彫，漆彫においても第一級の工芸家になっていった。他の追随を許さぬそれらの彫刻はすべて彼の刀工として磨き，獲得していった刃物の「切れ味」に裏付けされていたことは言うまでもない。その点東洋を語る場合に刀剣は絶対に通り抜けできない基本的なものである。この刀剣は刀工としては最後という覚悟で臨んだものであり，刀身には力強く冴えわたる技で龍の抜群の彫りがしてあり，刀剣としての価値と，東洋ならではの彫刻の価値とを合わせ持っている。

鎬造，庵棟，鍛えはよく詰んだ柾目鍛えで，刃文は直刃を焼いている。表に不動明王の加護を求める倶利迦羅龍，裏に護摩箸を彫っている。

茎は栗尻で，鑢は横。

平成３年度事業報告

特別展

恐怖と救済

－中世人の生と死－

平成３・10・12～11・10

科学万能といわれ，命の誕生までもが操作されるようになった現代においても，葬儀は人生最後の儀式であり，墓参・先祖供養の行事も受け継がれている。墓地の入口や道の辻にお地蔵様がいるのはどうしてか，なぜ法事をするのか，私達の生活の中に伝えられていながらほとんど意識されないままのこれらのことも，先人達が現世・来世の救済を願った結果といえる。そして誰ひとり見たものはいないにも関わらず，私達日本人は「地獄」「極楽」にある共通のイメージを抱いている。

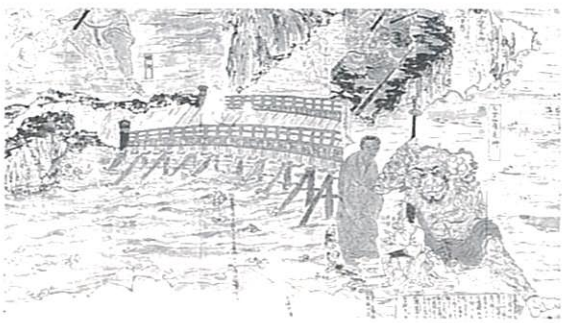
今年度特別展は「恐怖と救済」と題し，日本人が「生」と「死」をめぐって想い描いてきた「恐怖」と「救済」，さらにいえば「地獄」と「極楽」の思想の系譜を探ってみようと企画したものであった。

古代の社会が崩れ，武士同志の抗争，僧兵の横暴，天災の頻発する不安定な中世に生きる人々にとって，来世は現世と，あるいはそれ以上に重要な問題となり，仏教は多くの人々と深く関わり始める。末法の世の到来を感じ浄土へ憧れ経塚を築いた人々，縁者の魂の安泰を願って写経をした人々，ただ一心に「なむあみだぶつ」の名号を唱えた人々。寺や市井で行われた地獄・極楽の絵解きに聞き入った人々。中世以降の人々が何を恐れ，どの様な救いがそれらに対して用意されたのか，様々な人々の「生」と「死」をめぐる恐怖と救済の思想を概観していただく一助になると思われる資料を集め，展示を構成した。国宝（１件），重要文化財（17件）の指定品や，村の堂の仏様，発掘資料など，多種多様な資料を織り混ぜての展示となったが，数時間を館内で過ごされる方も多く，「生」と「死」をめぐる心，魂の問題が，今日もなお一層重要な問題として捉えられ続けていることを感じた。

なお会期中の10月19日（土）には，奈良教育大学教授赤井達郎氏による「地獄・極楽の絵解き」と題する講演会を開催したところ，非常に多くの聴衆を集め，盛会となった。

遊行上人絵巻（部分）　重要文化財　室町時代　広島県常称寺蔵

「往生要集」（写本）重要文化財
長徳２年（996），石川県聖徳寺蔵
源信存世中の写本として知られる。
今回初公開となった。



冥途の旅図巻（部分）江戸時代　真備町公民館蔵

閻魔庁像（玉野市・正蔵院蔵）の前では大人も子供も足を止めて。

企画展

知られざる名作

平成4．2．8～3．8

文化財はわれわれにとって，先人の残してくれた言葉無き遺言で，その時代の人々の考え方や，美意識，技術水準など諸々の情報をわれわれに提供してくれるところに大きな価値がある。

国・県指定文化財など評価の定まった指定物件のほかに，歴史や文化の解明に非常に参考となる考古，文書，美術，民俗，刀剣，焼物，工芸など未発見のものを含め数多くの資料が現在のわれわれの周りに残されている。

日常の展示活動の一環として，われわれは従来から良く知られ，価値においてすでに高く評価されている資料も当然紹介しているが，日頃から文化財に接し，また未発掘の資料にいち早く遭遇する機会の少なくない学芸員は，新しい資料の掘り起こしを行ったり，既存資料の新しい観点からの調査研究をすすめ，これを紹介する事も重要な活動と考えている。

今回はこうした部分に特にウエイトを置いて，一般にはあまり知られていないけれども，調査の結果価値が高いと思われる資料や，知られているものでも，新しい観点から知られざる部分を掘り下げたものなどを選んで「知られざる名作」として一堂に展観してみた。その結果，全体として見る人にかなりインパクトを与えるものとなっていたように思う。

彩色備前　孔雀　江戸時代中期

出品目録

【考古】

木山坂元出土蔵骨器	1合	奈良時代	落合町教育委員会
銅戈	1口	弥生時代	笠岡市立郷土資料館
酒津式壷形土器	1点	弥生末期	個　人
須恵器大壷	1点	古墳時代	瀬戸内考古学研究所

【絵画・彫刻】

如来・菩薩塑像断片他	一括	奈良時代	久米町教育委員会
大般若経	10巻	南北朝時代	美甘村　宇南寺
八相涅槃図	1幅	南北朝～室町時代	総社市　宝福寺
滝見観音像	1幅	室町時代	備前市　正楽寺
女神像（板絵）	1面	室町時代	津山市　高野神社
神像	1幀	室町時代	岡山市　松林寺
源氏物語図屏風	6曲1双	江戸前期	岡山市　岡山城
富士巻狩図屏風	6曲1隻	江戸前期	個　人
絵馬　繋馬図	1面	江戸前期	柵原町　本山寺
蝦蟇・鉄拐仙人図	2幅	江戸中期	総社市　宝福寺
井山秋葉宮金毘羅宮祭礼図	1鋪	江戸末期	個　人
聖観音立像	1軀	平安後期	玉野市　無動院
地蔵菩薩坐像	1軀	南北朝時代	金光町　泉勝院
薬師三尊像	3軀	平安後期	美甘村　平島地区薬師堂
阿弥陀如来坐像	1軀	鎌倉時代	倉敷市　誓願寺
薬師如来坐像	1軀	鎌倉～南北朝時代	総社市　東光寺
毘沙門天立像	1軀	鎌倉～南北朝時代	総社市　東光寺
男神像	1軀	南北朝～室町時代	美甘村　宇南寺

【刀剣・陶磁・工芸品】

轡（杏葉形）	1具	鎌倉時代	邑久町　豊原北島神社
三繋	3連	南北朝時代	牛窓町　五香宮
轡（桃形）	1具	室町～江戸初期	邑久町　豊原北島神社
経机	1脚	桃山時代	岡山市　福田寺
箱笈	1背	江戸前期	作東町　薬水寺
備前大甕	1点	南北朝～室町初期	個　人
備前緋襷大徳利	2点	桃山時代	岡山県立博物館
備前大鉢	1点	江戸時代	備前市　正楽寺
彩色備前　孔雀	1点	江戸中期	個　人
山手焼急須	1点	昭和初期	個　人
群猿図鐔	1枚	江戸後期	個　人
錠前	1枚	江戸末期	個　人
宝剣　国重　附拵	3口	江戸初期	高梁市立図書館
宝剣　祐平	1口	江戸末期	岡山市　稲荷神社
大太刀　逸見東洋	1口	明治初期	倉敷市　羽黒神社
煙管入れ　逸見東洋	1口	明治中期	個　人
骸骨置物　正阿弥勝義	1点	明治前期	個　人
木砲　附砲弾棒火矢火薬	5門	江戸末期	個　人

【民俗】

鉄砲台製作工程及び諸道具一式		江戸末期	個　人

【文書】

三宅家伝記	1巻	室町時代	岡山県立博物館
八塔寺の制札	3枚	室町～桃山時代	吉永町美術館
宇喜多直家禁制札	1枚	室町末期	岡山市　無量寿院
宇喜多直家書状	1幅	室町末期	岡山県立博物館
筑前守秀吉下知状	1幅	桃山時代	岡山市　常楽寺
日禎ほか連署題目本尊	1幅	桃山時代	個　人

テーマ展

歴史の中の動物たち

7．31～9．1

平成3年度最初のテーマ展は，歴史資料に描かれた動物を取りあげた。原始・古代より人間の生活と切り離すことのできないものとして，さまざまな動物があげられる。それらは，埴輪や彫刻・絵画などのすがたで表現され，現代に伝わっている。この展覧会は，県内からそうした資料を集めて，小・中学生の皆さんにも楽しんでいただこうとの意図で，夏休みの時期に開催した。

内容は，「原始・古代の資料にみる身近な動物」「原始・古代における想像上の動物」「大陸よりもたらされた動物」「絵馬に描かれた動物」「霊力をもつ動物」「近世絵画のなかの動物」にわけ，人間の動物に対する様々な思いがこめられた資料を展示した。

とくに，土器や埴輪に刻まれている実在・想像上を含めた多様な動物などは見て素直に楽しめるものであり，夏休みの企画として効果のある展覧会であったと思われる。

主な展示資料

水鳥線刻文土器片　岡山市百間川遺跡出土
岡山県古代吉備文化財センター
線刻文器台片(獣)　岡山市加茂遺跡出土　〃
鹿線刻文壷　総社市刑部堀遺跡出土　総社市教育委員会
鹿線刻文円筒埴輪棺　瀬戸町陣場山出土　瀬戸町教育委員会
龍線刻文器台片　岡山市天瀬遺跡出土　岡山市教育委員会
木造　高麗犬　久世町　米来神社
絵馬　鶏図　森寛斎筆　倉敷市　本荘八幡宮
竹鶏図　円山応挙筆　倉敷市　蓮台寺
備前国備中国之内領内産物絵図帳〔写本〕
岡山大学附属図書館池田家文庫
群鶴図　井原市　浄見寺

線刻文器台片(獣)　岡山市加茂遺跡出土
岡山県古代吉備文化財センター

テーマ展

矢上山宝島寺（やあがりさんほうとうじ）

平成4．1．5～2．4

矢上山宝島寺は倉敷市連島矢柄にある真言宗御室派の準別格本山で，貞観元年（859）理源大師の開基と伝える。

連島は，「和名抄」に見える備前国児島郡都羅郷にあたると考えられ，高梁川河口に位置して，古くから高梁川の舟運と瀬戸内の海運の接点にあたる水上交通の要衝として発展したところ。戦国時代の享禄から永禄（16世紀中～後期）頃には備中国に編入され，近世には成羽・松山・新見藩など備中内陸諸藩の外港として機能した。

宝島寺はそうした港町の繁栄を背景に，中世には広大な寺域と多数の塔頭を有する大寺院であったと考えられるが，天正年間（16世紀末）のころ，戦火で全山を焼失したと言われ，江戸時代になって塔頭の一つであった阿弥陀院を中心に再興されて，現在に至る。

歴代住職のなかには，悉曇学の学僧として，また能書家として知られる寂厳がおり，宝島寺には，その関係資料が多数伝えられて，平成3年，「寂厳筆写・手沢本及び関係資料」の名で，岡山県指定重要文化財に指定されている。

この展覧会では，宝島寺の歴史に関わる資料を中心に展示を構成して，古い港に立地する真言宗寺院宝島寺を紹介した。

主な展示資料（○県指定重要文化財）

	天部立像	木造	2軀	平安時代
○	菩薩頭部	木造	1点	鎌倉時代
	寂厳法印像	絹本著色	1幅	安永4年(1775)　寂津筆　常明賛
	寂厳所用袈裟		1枚	江戸時代中期
○	宝島寺歴代系図		1幅	江戸時代中期　寂厳筆
	理源大師像	絹本著色	1幅	明和4年(1767)　寂厳賛
	真言八祖像	絹本著色	8幅	明和5年(1768)　岡田久敬筆
	弘法大師像	絹本著色	1幅	室町時代
	愛染明王像	絹本著色	1幅	南北朝～室町時代
	虚空蔵菩薩像	絹本著色	1幅	南北朝～室町時代
	不動明王像	絹本著色	1幅	室町時代
	阿弥陀三尊像	板絵著色	3面	室町時代
	両界曼荼羅	絹本著色	2幅	室町時代
	涅槃図	絹本著色	1幅	室町時代
	三尊菩薩像	麻本著色	1幅	李朝（1588）
	白衣観音像	絹本墨画	1幅	江戸時代前期
	白衣観音像	絹本著色	1幅	江戸時代中期　池田継政筆
	花鳥図	絹本著色	1幅	明和年間　岡田久敬筆
	山水図	紙本淡彩	1幅	寛政5年(1793)　釧雲泉筆
	松鶴図	絹本著色	1幅	江戸時代後期　黒田綾山筆

	十六羅漢像　絹本墨画淡彩	1幅	江戸時代後期 小野雲鵬筆
	経典・仏典	若干	鎌倉～室町時代
	棟札	6枚	戦国～江戸時代
○	宝島寺記	1冊	宝暦14年(1764) 寂厳筆
○	矢上八幡宮記録	1冊	延享2年(1745) 寂厳筆
○	寂厳遺書	1巻	宝暦13年(1763) 寂厳筆
○	悉曇字母(宝島寺版)	1帖	延享4年(1747)刊 寂厳著
○	悉曇章稽古録	2冊	延享2年(1745)刊 寂厳著
○	般若心経梵本・同版木		宝暦11年(1761)刊 寂厳著
○	仏説大愛陀羅尼経・同版木		明和2年(1765)刊 寂厳著
○	松石余稿	3冊	江戸時代中期 寂厳著
	古筆手鑑	1帖	近世初期調製(カ)

絹本著色
花鳥図
岡田久敬筆
宝島寺蔵

絹本著色　弘法大師像　　宝島寺蔵

博　物　館　講　座

「岡山県の歴史と文化」をテーマとする博物館の歴史講座を，下記の内容で実施した。この講座は，一般県民を対象とした公開講座で，例年好評を得ており，本年度も募集定員（60名）を越える86名の応募があった。

講座内容も，考古・美術・文書・刀剣・民俗等の各分野にわたってバラエティに富んだ構成となり，特に博物館所蔵の実物資料やスライドを活用しながらの解説は，分かり易いと好評であった。また，受講者の強い要望により，今回から史跡等を訪ねる現地見学会を実施した。本年度は，津山郷土博物館・津山洋学資料館・誕生寺を見学，美作地方の歴史に触れる一日を過ごした。

学習内容と日程

テーマ	講師	開講日
岡山の紙	学芸課長　竹林　栄一	5月31日(金)
砂鉄製鉄の起源と古代鍛刀	学芸員　臼井　洋輔	
曲物と桶	主事　八田　貞	6月7日(金)
中国山地の産業史 －木地師と塗師－	主査　田村　啓介	
現地見学 (津山方面)	本館職員	6月14日(金)
観音と地蔵の美術	学芸員　中田利枝子	6月21日(金)
岡山ゆかりの絵巻物	学芸員　守安　収	
縄文文化 －中津式土器を中心に－	副館長　高橋　護	6月28日(金)
津寺遺跡の発掘調査	岡山県古代吉備文化財センター 文化財保護主幹　高畑　知功	

〔受講者の感想・意見から〕

・どの講座も全く新しい知識を得た感があり，非常に貴重で今後の活動にも役立つものでした。来年以降の講座にも続けて参加したいと思っています。

・この講座ならではの豊富な実物資料にふれながら，専門の講師の深い研究に基く解説・講義で，期待以上の満足を得ました。学習環境が最高に整備された会場で，館員皆様の行き届いたお世話をいただいて有難うございました。

・机上だけでなく現地見学は極めて有益でありました。特に「津山洋学」に関しては，丁寧な展示解説をしていただき一人で訪ねるより数倍の知識を得た感がしました。来年も現地見学を是非とも実施していただきたい。

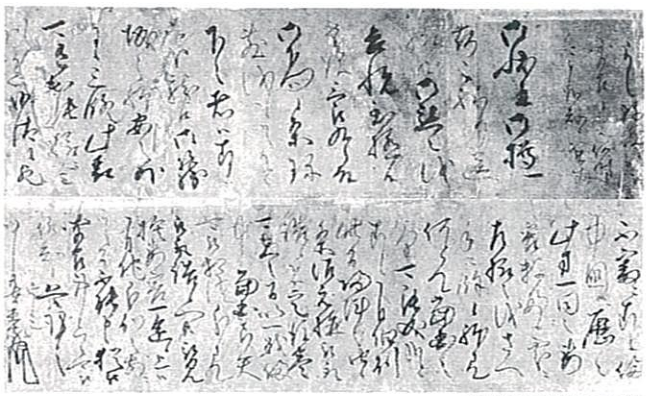
平成３年度購入資料

○北房町土井２号墳出土　頭椎大刀〔複製〕	１点	古墳時代後期
○銅　鐸〔複製〕	１点	弥生時代
○宇喜多直家書状	１幅	室町時代後期
○絹本著色　極楽鳥図　浦上春琴筆	１幅	弘化元年(1844)
○絹本著色　花鳥図　　古市金峨筆	１幅	江戸時代後期
○鰐魚尽図盆　　逸見東洋作	１点	明治11年(1878)
○四君子図矢立　逸見東洋作	１点	大正５年(1916)
○梅花香炉　　正阿弥勝義作	１点	明治33年(1900)
○瀬戸　四耳花瓶	１点	鎌倉時代
○旭焼　色絵秋草文耳付花瓶	１対	明治時代
○刀　銘　備州岡山住逸見竹貫斎源義隆	１口	明治４年(1871)

梅花香炉
正阿弥勝義作

絹本著色　花鳥図　　古市金峨筆

古市金峨(1805−1880)は児島郡尾原村（現倉敷市）の出身。若くして上洛し，岡本豊彦の弟子となって四条派の絵画を学んだ。30歳前後に帰郷して画作に励む一方，門弟を育成した。40歳を過ぎて出雲に赴き，多くの作品を残し，そして嘉永2年（1849）ごろ郷里に落ち着いた。晩年は時流の影響をうけ，南画の趣を取り入れて画風を一変した。本図は金峨の作品の中でも全盛期にあたる40代前半に描かれたもので，類例の少ない優品といえよう。



宇喜多直家書状

平成３年度寄贈資料

○小野光衛門肖像画	１幅	横浜市　小野重五郎
○石像彫刻　馬と人物	１点	大阪市　冨田　律子
○袴	１組	岡山市　三宅　隆章

（敬称略）

以上，貴重な資料の寄贈を受けました。永く大切に保管するとともに，本館の展示・研究資料として有効に活用させていただきます。ここに御寄贈くださいました方々のご芳名を記入し，厚くお礼申し上げます。

岡山県立博物館だより　　No.38
発　行　日　平成４年３月31日
発　行　者　岡山県立博物館
館長　　橋本泰夫
岡山市後楽園1−5
☎(岡山)72−1149